

よもやま歴史教室

2024

さまざまな歴史を学習することにより、心に栄養を与え、豊かに生きるヒントをみつけていただきたい。
皆様、ぜひご参加ください。

第7回

令和6年

12/14(土)

午後2時～

忍者・忍術

— 何が真実か —



講師 三重大学教授 やまだ ゆうじ 山田 雄司 先生

第8回

令和7年

2/15(土)

午後2時～

五百羅漢を訪ねて

— なぜ五百羅漢の造立が流行ったのか —



講師 羅漢研究家・よもやま歴史サークル会員 ちくさ みつお 千種 光雄 先生

第9回

3/15(土)

午後2時～

持統天皇

— 「壬申の乱」を勝ち抜いた女帝の素顔 —



講師 京都女子大学名誉教授 たきなみ さだこ 瀧浪 貞子 先生

【会場】 菰野町庁舎4階会議室

※東玄関よりお入りください。

【受講料】 各回200円(高校生以下無料)

■当日受付にて、住所、氏名、連絡先をご記入ください。

※講演内容等は、予告なく変更となる場合がございます。

※天候等諸事情により中止や変更となる場合があります。

中止等となる場合は、菰野町役場 HP、防災ラジオ等でお伝えいたします。

各回
詳細は
裏面へ

令和6年
12/14(土)

午後2時～

講師 三重大大学教授 山田 雄司 先生

講師紹介

1967年静岡県沼津市生まれ。京都大学文学部卒業、筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科修了。博士(学術)。現在三重大大学教授・国際忍者研究センター副センター長。国際忍者学会会長。主な著書に『忍者の歴史』(KADOKAWA、2016年)、『忍者はすごかった』(幻冬舎、2017年)、『忍者の精神』(KADOKAWA、2019年)など。日本各地だけでなく、世界25カ国で講演を行う。フジテレビ「忍者に結婚は難しい」、大河ドラマ「どうする家康」、Netflix「忍びの家」、NHK WORLD “NINJA TRUTH”などの忍者監修を行う。

忍者・忍術

— 何が真実か —

講演要旨

忍者と言えば、黒装束に身を固め、手裏剣を投げて戦い、煙を出してドロンと消える。こうしたイメージが定着していますが、はたしてこれは本当でしょうか？

忍者はいつからいつまで存在したのか。くノ一と呼ばれる女忍者はいたのか。忍者は水の上を歩くことができたのか。伊賀忍者と甲賀忍者は対立していたのか。忍者にまつわる疑問はさまざまあると思います。

三重大大学では2012年に忍者研究を開始し、2017年には国際忍者研究センターを設置して忍者に関する研究を進め、これまで数多くの新事実を明らかにしてきました。本講座ではこの研究成果に基づき、忍者・忍術に関するさまざまな疑問にお答えして、忍者・忍術の真実に迫ります。

令和7年

2/15(土) 午後2時～

講師 羅漢研究者・よもやま歴史サークル会員
千種 光雄 先生

講師紹介

1943年菰野町竹成生まれ。“やんちゃ坊主”の頃、“大日つあん”の築山を駆け登り遊びほうけていたのが「竹成五百羅漢」であり、以来“羅漢さん”には特段の関心を持っていました。20才の時、他県へ出てからも、折りに触れ各地の「五百羅漢像」を参拝し、これらの造立の意趣および奉安状況を調べ、羅漢さんを拝することから“お釈迦さまの教え”を理解しようとしてきました。

そして2004年以降、実家の院主さんの案内によるお釈迦さまゆかりの地、ネパール&インド等を巡拝する機会に恵まれ、羅漢さんの故郷および羅漢信仰のおこりを知ることとなりました。現在、よもやま歴史サークルへの入会を期に、益々、羅漢さんの研究に”のめり込んでいる”ところです。

五百羅漢を訪ねて

— なぜ五百羅漢の造立が流行ったのか —

講演要旨

前年「お釈迦さまの足跡を訪ねて」と題し話をさせていただきました。「羅漢さん」の師匠である“お釈迦さまの生涯の足跡”を訪ねることにより、「羅漢さん」は実在した高僧で、お釈迦さまの「教え」＝「仏」と私たち「人」とのあいだを“つなぐ”役目を担った“生身の人間”であると知りました。インドで発祥した仏教＝「お釈迦さまの教え」が諸国へ伝播して行き、特に中国では早くから輸入された「原始仏典」の翻訳(音写漢訳)が盛んに行われていました。その結果、中国を起源とする羅漢信仰がひいては五百羅漢信仰がおこったと言われています。羅漢さんは既に六朝時代(3C～)、絵画・彫刻・石像・塑像等で表され敬う象徴となっていました。

日本へは鎌倉時代の入宋留学生や高僧を通じて羅漢信仰がもたらされました。さらに江戸期に入って五百羅漢像の造立が流行った由縁とその”ご利益”を考えます。又、実際に参拝及び調査した91ヶ所の中から、拝観をお勧めする五百羅漢を紹介します。拝する人の「心のおき方」によって「話しかけてくださる羅漢さん」にお会い出来ます。

令和7年

3/15(土) 午後2時～

講師 京都女子大学名誉教授 瀧浪 貞子 先生

講師紹介

1947年大阪府生まれ。
1971年京都女子大学文学部卒業。
1973年京都女子大学大学院文学研究科修士課程修了。
京都女子大学文学部助教授、同大学教授を経て、現在京都女子大学名誉教授。文学博士。
専攻は日本古代史(飛鳥・奈良・平安時代)。
(主な著書)

『日本古代宮廷社会の研究』思文閣出版、『女性天皇』集英社新書、『源氏物語を読む』(編著)吉川弘文館、『最後の女帝 孝謙天皇』吉川弘文館、『持統天皇』中公新書2019年、『桓武天皇』岩波書店2023年など。

持統天皇

— 「壬申の乱」を勝ち抜いた女帝の素顔 —

講演要旨

持統天皇といえば、よく知られているのが『万葉集』に収める「春過ぎて 夏来るらし 白栲の」の歌である。

安定感のある歌のイメージから、冷静沈着な女帝であったと理解されることが多い。しかし史料から窺えるのは一途で執着心が強く、情念に満ちた女帝の姿である。夫の天武天皇が、古代最大の争乱といわれる壬申の乱に勝利したのも持統の協力があってのことだった。

天武没後はその遺志を継承し、皇位継承の安定化をはじめ藤原京への遷都を実現するなど、古代国家の基盤を築いた。波瀾万丈の生涯には今日でも学ぶべきことが多く、その生き様を通して壬申の乱の真相を考えてみたい。